



No.26

UT University Forests News

科学の森ニュース

January 10, 2005

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

北海道演習林で活断層が確認されました

北海道演習林

北海道演習林の樹木園で、北海道立地質研究所による「麓郷断層」のトレンチ調査が行われ、専門家も驚く鮮明な逆断層が露出し、活断層であることが確認されました。活動時期は数千年前とみられ、変位の大きさからマグニチュード7程度と推測されます。北海道活断層委員会による視察や富良野市博物館主催の市民観覧会も行われ、参加者は一様に感嘆の声をあげながら地質研究所職員の解説に熱心に耳を傾けていました。今後、薄層標本を採取した後、教育研究に供するため壁面を保存することを検討しています。



あらわになった活断層を見学する市民

「科学の森ニュース」のカラー版(pdf形式)を東京大学科学の森教育研究センター(演習林)のホームページからダウンロードすることができます。(<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>)

お知らせ

東京大学秩父演習林「自由見学日」

見学日：1月18日(火)、2月15日(火)、
3月15日(火)

見学時間：10～15時

公開区域：入川林道沿い

申し込み：当日受付

(入川溪流観光釣場奥ゲート横)

費用：無料

交通：秩父市街より車で1時間

その他：雨天中止、見学中のケガ・事故などの
責任は負いかねます。

問い合わせ：秩父演習林企画調整係

TEL 0494-22-0272

E-mail haruo@uf.a.u-tokyo.ac.jp



ドングリを播く参加者

千葉演習林にて関東甲信越地区演習林 技術職員研修開催

千葉演習林

11月9日(火)から12日(金)までの4日間、千葉演習林にて平成16年度関東甲信越地区演習林技術職員研修が開催されました。参加者は、北海道、岩手、宇都宮、東京農工、京都、高知の各大学から7名、本学職員を含め総計12名でした。研修のテーマは「公開講座の運営と課題について」、千葉演習林で開催された「秋の一般公開」と「森を測ろう」を題材としました。現地で一般公開のための看板立てや様々な機器を用いた樹木の測定を体験したのち運営方法や課題等について検討し合い、有意義な情報交換を行うことができました。



「森を測ろう」の説明を受ける参加者

トピックス

樹芸研究所森林教室 「秋の散策」開催されました

樹芸研究所

11月13日(土)、爽やかな秋晴れの中、青野研究林において森林教室が開催されました。地元から21名の参加がありました。演習林や地域の自然をより深く理解してもらおうと、秋の森林をゆったりと散策しながら植物観察を行ない、参加者からは研究や植物などへの質問が多く寄せられました。昼食後は、アラカシ、コナラなどのドングリを拾い苗畑に播種しました。これらの苗は、今後、イベントや研究に利用していく予定です。ドングリ拾いや苗畑作業といった珍しい体験も加わり、参加者も楽しいひと時を過ごした様子でした。

新居小学校4年生145名が 愛知演習林新居試験地を訪問しました

愛知演習林

11月22日(月)に、新居町立新居小学校の4年生が、総合的学習「浜名湖っていいな」の一環で、新居試験地を訪れました。マツ枯れ被害を受けている海岸林の歴史やマツ枯れの原因の説明を受けた後、4班に分かれ、丸太切り体験を兼ねたマツノマダラカミキリの幼虫探しと観察、鳥が運んだ植物など、海岸林の仕組みに関連した設問のクイズラリーに挑戦しました。



クイズ結構難しいぞ

田無試験地公開講座 「松が枯れていくのはなぜか？」が 開催されました

田無試験地

12月5日(日)に表記のテーマで公開講座が開催され、20名の受講者がありました。田無試験地の3人の教員がそれぞれ、「マツ枯れの正体」、「虫によって広がるマツ枯れ」、「松林保全への挑戦」という3つの切り口から解説を行いました。その後、試験地内の枯損木や網室でマツノマダラカミキリの食害・穿孔やこれまでの枯損の経過を見てくださいました。折しもマツ枯れが再発しはじめた市内の自治会から防除に協力してほしいとの切実な依頼が寄せられた他、熱心な質問が相次ぎ、予定より1時間も超過する結果となりました。



真剣な面持ちの受講者

デコレーション用のツリー、リース、 門松を秩父演習林より寄贈しました

秩父演習林

12月の間に、東大病院、農学部3号館、弥生講堂などで目にされた方も多いと思いますが今年も「デコレーションツリー」(モミの木)を秩父演習林より寄贈いたしました。今年にはさらに秩父演習林で行われた公開講座で秩父演習林サポーターが作製した「リース」と「門松」も同時に寄贈し、それぞれ研究部と弥生講堂に飾っていただきました。



農学部3号館のデコレーションツリー

編集委員会より

科学の森ニュースも創刊から5年目に入り編集体制を一新、紙面もリニューアルしました。これまで以上に読みやすい情報誌として新たな時代に入る科学の森ニュースをよろしくお祈いします。

チドリケマン

ケシ科 キケマン属

学名: *Corydalis kushiroensis* Fukuhara

北海道演習林

草丈約 1 m の草本で花は黄色。ナガミノツルケマン *C. raddeana* と混同されていましたが、「植物分類, 地理」(42巻2号、1991, 12) 誌上で新種として発表されました。北海道東部および中部の固有種で日高、旭川まで分布することは知られていましたが、北演では2002年の植生調査と2004年の水系調査で別々の箇所で見られ、確認されました。これは富良野地方では初見であると思われる。今後、分布経路の解明が待たれます。なお、類似種のツルケマン *C. ochotensis* と上述のナガミノツルケマンは北海道では確認されていません。また、同じキケマン属は北演内ではエゾエンゴサク *C. ambigua*、ホソバエゾエンゴサク *C. a. form. lineariloba* とエゾキケマン *C. speciosa* があります。

写真提供 -

堀江健二氏



名所・名物案内

相ノ沢スギ栽培品種展示林

千葉演習林

郷台苗畑の展望台から谷をへだてた対岸を見ると、スギの品種 33 種がくっきりとした列になって見られます。特に冬は赤みがかかる品種もあり、列がさらに明瞭になり壮観です。これは今から 74 年前の 1931 年、スギの挿し木品種を集めて斜面に 1~2 列ずつ植栽した相ノ沢スギ栽培品種展示林です。



間伐が行われました。

写真のとおり品種間にははっきりとした成長の差がありますが、斜面下部は斜面上部よりも成長が良いなど、土地条件や環境の違いにより一概に品種間の優劣を比較することができません。しかし、幹の形状や成長の速さには品種に固有の遺伝的性質がよく表れました。

参考: 金光桂二ほか (1985): 千葉演習林相ノ沢スギ品種試験地 50 年の生長経過、演習林 24: 65-11

科学の森ニュース (UT University Forests News) 第 26 号 (No.26)

発行日 平成 17 年 1 月 10 日

発行人 永田 信

編集人 丹下 健

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori@uf.a.u-tokyo.ac.jp